

9月7日（火）

おはようございます。

以前もお話したことがあります。京都大学の教授でありました教育学の溝上真一先生が、若い頃に自分の将来像、自分は将来こういふふうになりたいなあという将来像、あるいは、どういう形で社会のお役に立ちたいかといったもの、その基本は仕事に関するイメージですが、それがあるかかないかで、人生が大きく変わってくるというのを、データに基づいて研究されています。

そこでは四つのグループがある。

一つは、自分がなりたい将来像が具体的に描けている。それに対して今何をしなければならぬかということを考えている。さらに考えたことが、実行できているというグループ。これが一番いいケースです。このグループは大学に入ってから成績もいいし、社会に出てからも活躍が大いに期待できるグループです。

次は、将来具体的にになりたい姿は描けている。そして今自分がしなければならぬこともわかっている。けれども、しなくてはならないことができていないというグループ。

その次は、将来に自分がなりたい姿は明確にある。しかし、今何をしなければならぬかがわかっていないというグループ。

四番目は、将来何をやりたいかがわからないというグループ。このグループが最悪だという。最悪だというのはどういうことかというところ、研究の結果、中高生の間に自分の将来像を思い描けない生徒は、その後大学に入ってから自分の将来像を考えることができないままだということなのです。では、こういう人はいつごろ将来のことを考えるのか。それは、大学三年の終わり、就職の時期にやっと考えることになる。それではしかし、もう手遅れになっている。

これは、勉強をするために必要な基礎学力と一緒に、基礎学力が身につけていないと、勉強そのものできないように、自分の将来像というものも若い頃から積み上げていくものであって、ある日突然作り上げることはできないのです。

今の時期に将来像をさまざまにイメージできない人、それをしようとしぬ人は結局、大学に行ってもイメージできないまま、最終的に就職活動するときにあわてることになる。これでは社会で活躍しようもないのです。

ですから、諸君が今から将来像を思い描くことはとても大事なことです。それは勉強だけのことでなくて、例えばパティシエになりたいというのでもいい。パティシエになりたいから、今いろんなお店を見に行つて、味とか確かめるといったことね。こういう行為を、

接続行動といいます。自分がやりたいことと接続する形で、今必要な活動を開始するかということ。

これと、少し共通する話を、ベネッセの人から聞いたことがあります。高校 3 年の模擬試験で、E 判定の生徒は合格率 20% 以下です。合格するには最も厳しいグループですが、しかし、E 判定の 5 人に 1 人とか、6 人に 1 人とかが実際には合格しているのです。ベネッセがこの合格した子どもに対して、何か共通項があるのではないかと思い調査をしてみたところ、彼らには、なりたい自分の将来像というのが明確にあったのです。それが彼らの共通項だったという話です。

以上の意味からも、今のうちから自分の将来像というものを考えることがとても大事なのです。それを考えられるようになることが、自分が伸びて行く大きな要因なのです

清風は福の神のコースで、やがて人々を幸せにするような人を育てようとしています。ですから諸君は、どういう形で人々を幸せにするのか、どういう形で社会に貢献していくのかといったことを、中高の今の時期に考えるようにしなくてはなりません。今それを考えることができなかつたら、いつまでも考えることはできないというのだから。しかし、何にもなりたいものがわからないというのであれば、それは危険な兆候です。しかし、将来こんなふうに活躍したいから、今ぼくはこういう準備をしていこうと思えるようになったら、今の成績に関わらず伸びていくチャンスとなります。ひとつよく考えるようにしてもらいたいと思います。今朝の話はこれで終わります。

学校長